

4 年次後期・必修**1 単位・30 時間**

【概要・目標】

患者が医療に求めているのは納得である。単なる治療では医学的情報と技術を与えることはできても納得は与えられない。納得を与えるのは看護である。正しい看護によって医療コミュニケーションが成立することができる。本講義では、医療の中での看護の意味を考える。

また、医療従事者と患者との関係、医療スタッフ同士の対人関係、そして患者と家族・友人との関係を構築するのに必要なコミュニケーションの理論、すなわち、言語による説明と理解のメカニズム、コミュニケーションの動機、コミュニケーションとアイデンティティについて理解を深め、実践に生かせるようにする。

【授業内容・スケジュール】**担当者**

1) 2) 医療と人間	有田
3) 4) 循環器病の変貌から未来を見据えて	有田
5) 6) 臨床の視点－医療人と患者（家族）のふれあい	有田
7) 8) インフォームド・コンセント：臨床の現場から	有田
9) 比喩による未知・既知の事象の理解 (part 1)	増田
10) 比喩による未知・既知の事象の理解 (part 2)	増田
11) レトリックによる説得的コミュニケーション	増田
12) ナラティブの心理学：なぜ語るのか	増田
13) 自己とフェイス	増田
14) 会話分析とエスノメソドロジー、	増田
15) 流言とリスク・コミュニケーション	増田

【評価】

2名の担当者が50点満点で個別に評価したものの合算が最終成績として報告される。

【有田担当分】筆記試験（70%）、授業への参加態度（10%）、提出物（20%）

【増田担当分】ショートペーパー課題（7回出題中3回提出）もしくは、期末試験の選択制を原則とするが、それぞれの50%の合算という第3の選択肢もある。詳細は、増田担当初回の第9講で配布される授業運営用シラバスを参照のこと。

評価責任者：増田匡裕教授

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

【有田担当分】中村雄二郎「臨床の知とは何か」岩波新書

【増田担当分】。

【その他】

【有田担当分】座学の講義形式でなく、課題を与えて自ら考える講義形態で行う。

【増田担当分】ショートペーパー課題は「まとめ」ではなく「理論を用いて現実の事例を分析する応用課題」であることに留意すること。